

奄美ヶ丘小児科新聞

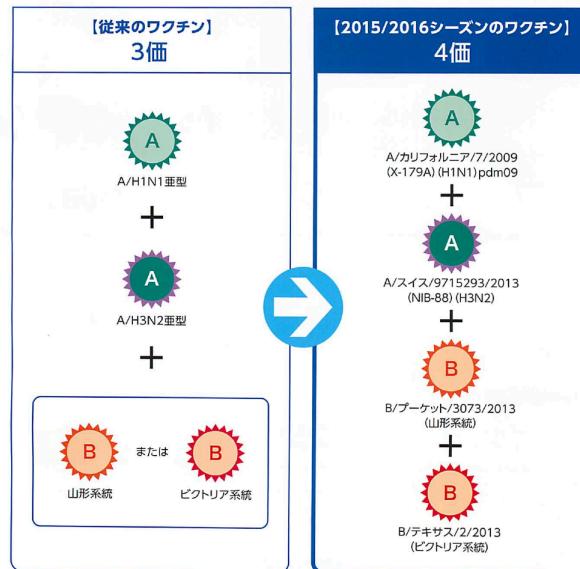
No.17(平成27年第3号)

特集：インフルエンザワクチン



今年からインフルエンザワクチンが変わりました

昨年度までのインフルエンザワクチンは、A型が2種類とB型が1種類の合計3種類が入っていましたが、今年からA型2種類とB型2種類の合計4種類が入るようになりました。このため予防できる範囲が広くなり、右下のグラフからも分かるように、B型の効果が上がることで予想されます。欧米では、2013年から4種類のワクチンがすでに導入され効果が上がったといわれています。

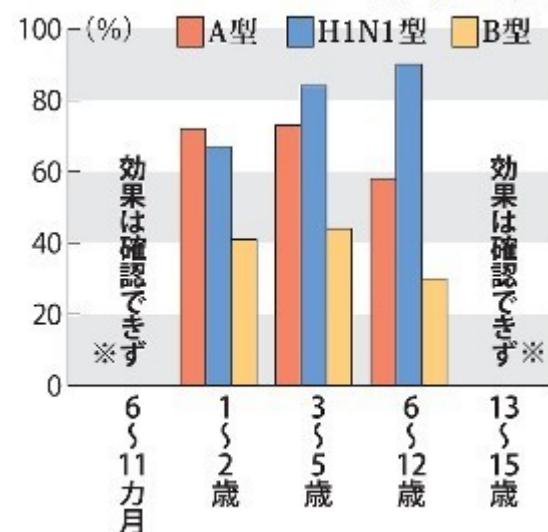


1歳未満のインフルエンザワクチン接種

慶応大学の調査研究で、1歳から12歳までのワクチンの有効性が示されましたが、1歳未満と13～15歳は効果が確認できませんでした。これは、「効果がなかった」という結果ではありません。このことから、1歳未満のワクチンの効果は、依然はっきりしません、あっても低いと考えられます。インフルエンザワクチンは、生後6カ月から接種できますが、流行が始まる1月に1歳になっているお子さんは接種しておいたほうが良いと思います。

また、大人の方がワクチンの効果が高く、感染源の多くはお父さんお母さんです。必ず、お父さんとお母さんはワクチンを接種してください。子どもには接種して、お父さんお母さんが接種しないのは、ありえません！

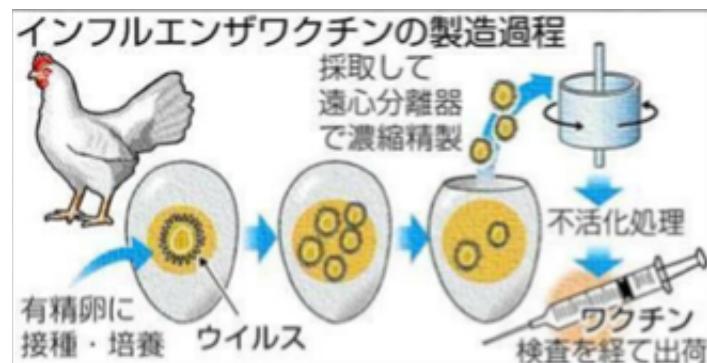
インフルエンザワクチンの発症防止効果



*この研究での13～15歳のワクチンの効果が確認できなかったという結果は、大人での効果は認められていますので、今後詳細な検討が必要と言われております。13～15歳の方の接種が効果がないという結果ではありません。

卵アレルギーですが、接種できますか？

インフルエンザワクチンは、卵を使ってつくられますが、日本のワクチンは高精度に精製されているため、卵アレルギーがあっても、少しでも卵が入っているような食品を食べられる方は接種できます。アナフィラキシーを起こすような重篤な方や卵の完全除去が必要な方は接種できません。主治医に一度相談してください。



効果はどれくらいででて、どれくらいもちますか？

流行のピークは1月からですが、早いときは12月下旬からから流行が始まります。効果がでるまでに約2週間必要なため、2回目の接種を12月上旬までには終わらせておきたいです。

効果の持続は、2回目接種後から約5～6カ月までと考えられています。